

【授業科目】解剖組織学 Anatomy and Histology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉浦 諭	1年次前期	必修	1	15	講義	なし	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／解剖組織学は人体の基本的構造を知るための最も基礎的な学問であるとともに、関連科目を修得するにあたり、重要な科目でもある。解剖組織学では正常な人体の形態と基本的な構造を細胞から組織、器官、器官系さらに個体までを統合して理解することを目的とする。基礎となる解剖学用語を学修させ、人体を構成する各器官を骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系の系統に分け、それぞれの名称、形状、構造、機能、および位置関係と、組織学的特徴を系統立てて講義する。また、種々の臨床検査に対応するための解剖学的知識も教授する。 課題に対するフィードバック方法／課題は予定しないが、質疑には都度応答し必要に応じて他学生にも周知する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 正常な人体の構造に関する用語を正しく使用することができる。 ② 人体の各器官の位置と構造を説明することができる。 ③ 人体の主要な組織を説明することができる。 ④ 形態から人体の構造や機能を読み取るための基礎知識を習得する。 ⑤ 採血、検体採取及び生理学検査に対応するための解剖学的知識を習得する。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>・事前に、計画されている領域を教科書や配布資料にて予習し、また前回講義の復習も行ってから授業に臨むこと(予習・復習で各120分)。 ・講義内容で不明な点は、講義中もしくは講義終了直後に明確にするよう努めること。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 細胞と組織：細胞の構造と機能、上皮・支持・筋・神経組織</p> <p>第2回 骨格系：骨の基本構造、骨の発生と成長</p> <p>第3回 筋系：筋の基本構造、頭部・頸部・体幹の筋</p> <p>第4回 循環器系：肺循環と体循環、心臓の機能と構造</p> <p>第5回 呼吸器系：鼻・咽頭・喉頭・気管・肺の機能と構造</p> <p>第6回 消化器系：消化管と消化腺</p> <p>第7回 内分泌系：内分泌器官と分泌ホルモン、泌尿器系：腎臓・尿管・膀胱・尿道、生殖器系：男性生殖器と女性生殖器</p> <p>第8回 神経系：中枢神経・末梢神経、感覚器系：視覚器・平衡聴覚器・味覚器・嗅覚器・皮膚</p>						全て杉浦	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分により、総合的に判断する。 学期末試験 100%</p>							
教科書	『最新臨床検査学講座 解剖学』 医歯薬出版 『入門組織学』 南江堂			参考書等		なし		
学生へのメッセージ	<p>人体構造は、すべての医学系科目の基礎となります。解剖組織学に関する用語を覚えるのと同時に、形態から人体の構造や機能を読み取るための基礎知識を習得してください。</p>							